

保育の環境構成を目的とした造形制作に関する一考察

A Study of Thought Patterns about the Formative Arts in Early Childhood Care and Education

(2004年3月31日受理)

木内 菜保子

Naoko Kiuchi

Key words : 幼児, 環境構成, 造形, 年中行事

抄 録

子どもは生活の中で接する自然や身近な事物に対して興味や関心を持つので、保育環境は重要な役割を果たすと言える。保育環境の1つである壁面構成の小型模型制作を課題として学生に与えることで、題材選択に特徴があることが分かった。また、適切な題材選定についての重要性と配慮の必要性が明らかになった。

1. はじめに

子どもの生活にとって、保育環境は重要な役割を果たす。保育所保育指針には保育の目標として「自然や社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の基礎を培うこと¹⁾」が掲げられ、特に保育の環境については「子どもの生活が安定し、活動が豊かなものとなるように、計画的に環境を構成し、工夫して保育することが大切²⁾」であり、また「自然や社会の事象への関心を高めるように、それらを取り入れた環境をつくることに配慮する³⁾」と明記されている。また幼稚園教育要領には「幼稚園教育は、学校教育法第77条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本⁴⁾」とし、特に「教師は、幼児と人やものとのかかわりが重要であることを踏まえ、物的・空間的環境を構成しなければならない⁵⁾」とされている。また目標として「自然などの身近な事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うようにすること⁶⁾」が明記されている。このように、保育において環境の果たす役割は重要であると言える。

子どもは成長していくにともない、自然や身近な事物に対して興味や関心を持つようになる。子どもにとっての身近な事物には保育室があり、その保育室の壁面構成に、興味や関心を持つことは十分に考えられることである。したがって、壁面構成の題材を子どもの発達に応じた適切なものを選択すれば、子どもの発達の刺激となる可能性があると考えられるだろう。そこで筆者は、壁面構成の小型模型制作を授業課題として取り入れている。

本論では、壁面構成の題材として選択されているものについて、その傾向を調査し、考察を加える。

2. 調査方法

(1) 調査対象

下記年度の授業「幼児造形B」で、提出された壁面構成ミニスケール制作のための下絵を調査対象とした。

- ①2001年度中国短期大学幼児教育科1年 164名
- ②2002年度中国短期大学幼児教育科1年 166名

(2) 授業説明

「幼児造形B」の授業は中国短期大学幼児教育科1年

生を対象に、必修科目として開設されている。授業では、保育園、幼稚園などの保育室の壁面構成の小型模型を制作することを課題としている。この壁面構成は1月から12月のそれぞれの月について、自然や季節、年中行事などの適切な題材を選択し、制作するものである。

授業の流れとしては、まず、それぞれの月に適した制作する題材を決めるとともに、制作の下絵として、月毎に描く。題材やデザインを決めることについては、参考資料として「(3) 提示した参考資料」に示す本を提示した。その他の資料については、学生の自由選択とした。次にその下絵を基にして、8つ切りの大きさのOPケント紙を壁面に見たて、画用紙や色紙、廃材などを使って制作する。使用する材料は自由であるが、購入したものをそのまま使うことがないように指示している。

(3) 提示した参考資料

- ①米原苑子：「壁面を作って遊ぼう」, ひかりのくに株式会社 (1998)
- ②中村信子・柳深雪：「教育のアイデア1 教室環境デザイン12ヶ月〈4月～9月〉」, 黎明書房 (1999)
- ③中村信子・柳深雪：「教育のアイデア2 教室環境デザイン12ヶ月〈10月～3月〉」, 黎明書房 (1999)
- ④伊藤英子・高橋系吾・今村淳・栗岩英雄・伊藤鶴吉：「教育技術ムック 別冊幼児と保育 新しい壁面構成・春夏秋冬」, 小学館 (1996)
- ⑤壁面アイデア開発研究会：「保育壁面と素敵なグッズ クリスマス・正月・節分・ひなまつり・卒園 12月・1月・2月・3月・楽しいカット集」, ひかりのくに株式会社 (2000)

3. 結果及び考察

収集した下絵資料は、複数の学生に選択された題材を項目に分け、それ以外のものは「その他」として分類しまとめると、表1に示す通りである。なお、資料は制作の過程で破損、紛失破損するなどして提出されなかった場合もあり、対象の人数と回収枚数は一致していない。また、月によって回収枚数が一律ではない。

以下、それぞれの月毎に考察を加えていく。

(1) 1月

1月は「正月」を題材にするものが2001年度には117人(79.0%)、2002年度には124人(82.7%)だった。正月を表現する物としては「門松」, 「鏡餅」, 「獅子舞」など新年を祝う飾りやお供えなど、また「凧上げ」, 「羽子突き」, 「独楽」などの遊び, 「初日の出」, 「初夢」などである。「門松」, 「鏡餅」などのそれとは分かる物であるが「ダイダイが描かれていない」, また「門松の葉牡丹が描かれていない」など何か足りないという印象を与えられる。また描いている過程で「門松が描きたいが、どのような物だったか分からない」などの発言も多く見られた。これらの物は正月によく目にするが、その記憶だけを元にして描くことが難しいことが分かる。

「正月」を題材にしたもののうち、2001年度103人(88.0%)、2002年度108人(87.1%)に、先に挙げた3種類の遊び「凧上げ」, 「羽子突き」, 「独楽」のいずれか1つが描かれている。近年、正月に子どもたちが凧上げや羽子突き、独楽回しなどをして遊ぶ姿を目にすることは極めて珍しいことではないだろうか。それにもかかわらず「正月」を印象付けるものとして、日本の伝統的遊びが多く描かれていることは興味深いことである。

(2) 2月

「節分」を表現しているものは、2001年度109人(73.6%)、2002年度101人(67.3%)だった。具体的には「豆まき」が描かれ、そこに「鬼」や「鬼のお面をかぶった人間や動物」が表現されている。鬼は、赤鬼の表現が多く、2001年度65人(59.6%)、2002年度61人(60.4%)が赤鬼を描いている。次いで青鬼が、それぞれの年度で23人(21.1%)、21人(20.8%)である。鬼は想像上の生き物であるため、その色は決まっていない。したがって、鬼の表現は多種多様で色鮮やかであって良いだろう。今回の調査においては黄色、ピンク色、オレンジ色などの鬼や、肌色の肌を持ち緑色や黄色などの髪の毛を持つ鬼などの表現も見られたが、赤鬼、青鬼ではない鬼を描いているものは、2001年度21人(19.3%)、2002年度19人(18.8%)である。これらより、鬼といえば赤鬼というような固定観念があると言えるのではないだろうか。

「雪景色や雪遊び」を表現するものは2001年度35人

(23.6%), 2002年度32人(21.3%)であり、1月に比べて割合が大きくなっている。2月が最も寒い月であるので、寒さの象徴として雪が表現されることが多くなっているのではないだろうか。

「バレンタイン・デー」を題材にするものが、それぞれの年度で2人(1.3%), 10人(6.7%)だった。バレンタイン・デーは、既に日本社会で慣習となっているが、子どもを対象とした壁面構成の題材として適切なものであるかは疑問を感じる。この題材については、深い思慮を持つようにしたい。

(3) 3月

「桃の節句」を題材として選んでいるものは、2001年度99人(67.3%), 2002年度126人(82.9%)である。具体的には十二単や衣冠束帯を身につけた女雛、男雛が、人間や、動物が擬人化されて描かれている。また、ぼんぼりや桃の花、三人官女や五人囃子などを描いているものもある。「雛人形の横にある物の名前が分からない」、「ぼんぼりの形が分からない」、「三人官女、五人囃子の持っている物が分からない」などの質問があった。分からない為に描きたいにもかかわらず、女雛と男雛だけを描いて他の物は描かずに済ませるという発想も見られた。近年の雛人形は、三人官女や五人囃子、数々の道具類などが組み合わされていないものも多い為、実際に見て知るといふ機会が少ないと言える。雛人形を表現する場合、これらの物を必ず描く必要はないが、雛人形についての知識が無いと自分で取捨選択して、自分なりの表現をすることはできないのではないだろうか。

「そつえんしき」という言葉がはっきりと描かれているものは「卒園」という項目に分類した。これらは2001年度18人(12.2%), 2002年度13人(8.6%)だった。3月は年度の終了であり、進級していく子どもたちを対象にした壁面構成があってもよいと考えられるが、本調査では見つけられなかった。「その他」に分類したものにも年度の終了を表現したものはなく、この題材が表現し難いことが分かる。

(4) 4月

入学式や始業式など年度の始まりを題材としているものは、2001年度94人(63.5%), 2002年度116人(77.3%)

だった。これらのうちで「おめでとう」という言葉が入っているものと入っていないもので分類すると、順に48人(51.0%), 46人(49.0%), 74人(63.8%), 42人(36.2%)となっている。進級にあたる保育室の壁面を想定してデザインを考えているものについては、「おめでとう」という言葉を入れない方がいいのではないかという意見も聞かれ、「おめでとう」という言葉が入ることで、入園を祝う印象が強められることが推察された。

野原に咲く花や虫、蝶など春の訪れを表現しているものは2001年度36人(24.3%), 2002年度18人(12.0%)だった。また、桜の木が主軸となって「花見」を表現しているものは、順に8人(5.4%), 7人(4.7%)である。チューリップや桜、また蝶や蜂などの春を象徴する物として思い付いた物を「どのように描いたらよいか分からない」という発言が多かった。思い付きを絵に描き構成していきたいという欲求が強いため、「蝶」を思い付いたならば「必ず蝶を描かなくてははいけない」という思考に入ってしまう、「上手く描けないので自分には、これ以上出来ない」と結論づけてしまう場合も多く見られた。描く為に必要な資料は見てもよし、必要な資料は探さなくてははいけない。また、自分で構成する壁面のデザイン画の課題においては、描けない物を描かなくてははいけない事はなく、自分が描き易い物や描ける物など他の題材に変えて、自分が思い描いたデザインへ近付けていくという発想への転換が必要だろう。さらに、これまで描いたことのない物であっても、資料などを見て描くことに挑戦することも必要であると言える。

(5) 5月

「端午の節句」をテーマにしているものは、2001年度133人(89.3%), 2002年度137人(91.3%)である。端午の節句をテーマにしているものの中で、金太郎が登場するものは、2001年度については10人(7.5%), 2002年度については12人(8.8%)いた。2001年度には端午の節句をテーマにしているもののすべてにこいのぼりが登場するが、2002年度には133人(97.1%)のうち4人(2.9%)には登場しない。こいのぼりが描かれなくても兜や金太郎など、端午の節句を想像させる物が描かれている。金太郎が登場させるものには、必ずクマが登場する。これは、童話「金太郎」の中で、金太郎とクマが

相撲をとる場面が描かれていることの影響であると考えられるだろう。また、市販されているイラストカット集などにも「5月」のデザインには、金太郎とクマが同時に描かれている物が多く、これらを資料として使っている為、学生が描く金太郎の傍らにクマが描かれていると言えるのではないだろうか。

人間関係を学ぶ過程では、「母の日」を子どもに経験させることは重要な意味を持つだろう。また、母親に対する気持ちをプレゼントと言う形で表現することができるので、プレゼントを自分で作るというような造形活動を展開できるのではないだろうか。すなわち、「母の日」は5月の活動の1つになり得る題材と考えられるだろう。「母の日」を題材に選んでいるものが両年度で5人(2001年度3.4%、2002年度3.3%)しかいないことから、多くの学生が5月に母の日があるということを記憶に留めていない可能性を考えることができる。5月の行事として改めて考えさせる必要があるのではないだろうか。また、この題材を扱うことについては、父子家庭などで母親の居ない家族に育つ子どもについての配慮が必要であることも注意したいことである。

(6) 6月

6月の題材として選ばれているものは、梅雨が多く、2001年度には143人(94.1%)、2002年度には139人(93.3%)であり、大きな割合を占めている。梅雨を象徴する物としては、各年度で多い物から順に挙げると、2001年度は「カタツムリ」95人(66.4%)、「紫陽花」94人(65.7%)、「カエル」80人(55.9%)、「傘」63人(44.1%)、「てるてる坊主」47人(32.9%)、「長靴」37人(25.9%)、「虹」21人(14.7%)、「おたまじゃくし」11人(7.7%)、「雷様」3人(2.1%)である。次に、2002年度は「紫陽花」90人(64.7%)、「カエル」80人(57.6%)、「傘」79人(56.8%)、「カタツムリ」75人(54.0%)、「長靴」48人(34.5%)、「てるてる坊主」38人(27.3%)、「虹」29人(20.9%)、「おたまじゃくし」7人(5.0%)、「雷様」5人(3.6%)である。梅雨の象徴となる物はほぼ同じであるが、50%を超えるものは2001年度には3種類で、2002年度は4種類であり、2002年度の方が表現される物が多くなっていると言える。

題材として「父の日」を選択したものは、2001年度に

は3人(2.1%)、2002年度には1人(0.7%)である。全項目「5月」で挙げた「母の日」同様、「父の日」についても造形活動の題材としての可能性が大きいと考えられるにもかかわらず、ほとんど取り上げられていない。したがって、家庭環境を考慮した対応についての必要性も含めて、「父の日」に対する理解を深める必要があると言えるのではないだろうか。

(7) 7月

7月の題材として「七夕」を選んでいるものが、2001年度には99人(65.1%)、2002年度には98人(65.8%)となっている。「七夕」を表現する物として主な物は、具体的に「織姫と彦星」、「笹飾り」、「天の川」が用いられている。それぞれの割合を「七夕」を選択したものの中で計算すると、2001年度では「織姫と彦星」は、61人(61.6%)、「天の川」は60人(60.6%)、「笹飾り」は59人(59.6%)となる。また、2002年度では前述の順で、69人(70.4%)、73人(74.5%)、43人(43.9%)となる。2002年度の方が2001年度よりそれぞれの割合が大きく、2002年度の方が「織姫と彦星」と「天の川」や、「天の川」と「笹飾り」など重複して題材を表現しているものが多いと判断できる。したがって、2002年度の方が壁面構成が豊かな表現になっていると言えるのではないだろうか。また、「天女」が登場しているものが、それぞれの年度で2人(両年度で2.0%に相当する)居る。イラストカット集などの資料には、織姫のデザインで羽衣が描かれている物が多く、このため織姫の着ている物に羽衣が描かれていると推察できる。このことは、羽衣伝説に登場する天女と織姫との間に混同があることを示しているのではないだろうか。

2002年度については、「水遊び」7人(4.7%)、「星空に関する物」7人(4.7%)など、複数の学生がそれぞれ表現する具体的な物は異なっているが、同じ題材を選んでいて、「その他」に分類されるものが9人(6.0%)となっている。一方、2001年度は同一題材として項目に分けることが出来ず「その他」に分類されるものが16人(10.5%)となっている。このことから2001年度の方が、いろいろな題材を選んで表現していると言える。

(8) 8月

8月の題材として表現されている物は「海辺の様子や海水浴の風景」、「花火大会」、「虫取り」が代表的な物である。これらの割合を順に示すと、2001年度は65人(43.6%)、42人(28.2%)、21人(14.1%)である。また、2002年度については60人(39.5%)、40人(26.3%)、13人(8.6%)となっている。これら3つの題材は、両年度において選ばれる題材の上位になっている。2002年度については、2001年度には見られなかった「夏の庭の様子」が、複数の学生に選ばれている。両年度に共通する題材として「水遊びやプール」、「お化けや肝試し」があるが、2002年度の方が割合が大きくなっている、全体として2002年度の方が重複されて選ばれる題材が多くなっている、2001年度の方が1つひとつの題材の割合が大きくなっている、題材の種類が少ない。これらのことから、2002年度の方が豊かな想像力を持って構成していると言えるのではないだろうか。

(9) 9月

9月の題材は「月見」が、2001年度107人(69.9%)、2002年度111人(74.0%)であり、大きな割合になっている。「その他」の項目で表現されている具体的なものは「読書の秋」、「どんぐり」などである。「食欲の秋」として分類したものの具体的な内容は、2001年度について挙げると、「葡萄の実りを表したもの」、「葡萄狩り」、「栗拾い」、「きのこ狩り」である。2002年度は、それらに加えて「みかんの木」を描くものがあった。次に「秋の虫」という項目の具体的な内容を挙げると、以下になる。2001年度は「鈴虫やコオロギが草むらで鳴いている様子」を描いているものしかなかったが、2002年度については、それに加えて「夕焼けと赤とんぼ」、「タヌキと赤とんぼ」、「虫の音楽会」などを描いているものもあり、表現の幅が広がったと言えるだろう。

9月15日の「敬老の日」を題材としているものは2001年度3人(2.0%)、2002年度3人(2.0%)で、極めて少ない。前述の「母の日」、「父の日」同様、「敬老の日」の扱いについても、祖父母との関係について認識したり、見直す機会となり得ると考えられるので、「敬老の日」の扱いについても注目していきたい。

(10) 10月

10月には祝日「体育の日」があるため、2001年度73人(49.3%)、2002年度88人(58.7%)が「運動会」を題材にしている。運動会を間近にして、壁面に運動会の様子や子どもたちが運動会で行う種目と関連したものを表現することで、子どもたちの気持ちを高めていくことが出来るだろう。実際の園生活では地域によって9月に運動会を行う場合もあるので、「10月だから運動会の壁面にする」と簡単に結び付けてしまわないようにしたい。

「収穫の秋」の項目は、果物や芋の収穫を描いているものである。この項目に分類したものは2001年度26人(17.6%)、2002年度37人(26.7%)だった。このうち「芋掘り」を描いているものの割合は2001年度21人(80.8%)、2002年度25人(67.6%)となっている。芋掘りを描いたものは、実際に自分が幼児期に園生活で体験したことが元になって描かれている場合もあり、強く印象に残る体験だったことが分かる。これより、印象深い体験は造形活動に結びつくと換言できるだろう。園生活での活動を壁面に表現することは、子どもの気持ちを高め、その活動で得られる子どもの感動をより大きく出来る可能性があるのではないだろうか。また、子どもに印象深い体験となったことは造形活動に発展させたい。

「ハロウィン」を描いているものは2001年度16人(10.8%)、2002年度9人(6.0%)である。日本社会で「ハロウィン」の宗教的な意味が定着しているとは考えられないが、店などに顔をかたどったかぼちゃの雑貨やお菓子などが市販されたり、イベントとして扱われているものを、よく目にする。このような「ハロウィン」の扱いについても、「バレンタイン」と同様に意味を考えて扱いを決めていくべきではないだろうか。

授業の中で「月見は9月である」という確認をしているにもかかわらず、10月の題材として描いているものが2001年度6人(4.1%)、2002年度4人(2.7%)いた。これは月見が10月のものであるという誤った認識が強い為、授業内の確認があっても自分の決めた表現する題材が変わることなく用いられたと考えられる。また「その他」の項目に分類した物の中に、2002年度では「七五三」を題材とするものが1人(0.7%)いて、ここにも誤った認識が見られる。これらのことから、年中行事に対する誤った認識や理解不足があると判断できるだろう。

(11) 11月

11月の題材は「芋掘りや焼き芋」、「紅葉や落ち葉」が、2001年度45人（30.0%）、24人（16.0%）、2002年度30人（19.9%）、30人（19.9%）となっている。これらの2つの題材は、集めた落ち葉で焼き芋をするなど、複合的に表現されているものもあった。その場合「芋」が具体的に表現されていれば、「芋掘りや焼き芋」の項目に分類している。前述の「10月」でも触れたように、芋掘りは印象深い体験になり得るもので、このような強い感動を与える体験は、絵に描くなど造形活動に発展できる可能性が高いと言えるだろう。

「収穫の秋」として分類したものは「栗拾い」、「柿」、「きのこ」など果物や野菜などの実りを主軸にしたものである。一般的に「食欲の秋」と言われることから、食べ物を中心にしたものが多くなったと考えられる。

11月については題材の種類が多く、それぞれの割合を比べて、次のようなことが言える。最も大きな割合の数字は、2001年度が30.0%、2002年度が19.9%となっていて、この数字は他の月に比べて小さい。また複数の学生に選ばれている題材として表に挙げた項目が多い。つまり1つの題材に集中することなく、いろいろなものが表現されている。これは11月題材選定の特徴である。

(12) 12月

「クリスマス」を題材として選んでいるものが、2001年度136人（93.8%）、2002年度141人（93.4%）である。このことからキリストの降誕祭であるクリスマスが、本来の意味とは異なり催しの1つとして、生活に浸透していることが分かる。

「その他」の題材は「雪景色」や「もちつき」が複数に選択されるものとなった。これらの学生に共通した発言は「他の人と同じ物を作りたい」というものである。このことから自分の個性を出したいという欲求が強いことが分かるが、他の月ではほとんど見られない言葉なので、「12月にはクリスマスが当然の題材である」というような意識が強いということが予測される。その為、12月にクリスマスとは違う題材を選ぶことが、個性を出すことだという思いを生んだのではないだろうか。

4. 総括と課題

選ばれている題材は、1月「正月」、2月「節分」、3月「桃の節句」、4月「新学期」、5月「端午の節句」、6月「梅雨」、7月「七夕」、8月「海」、9月「月見」、10月「体育の日」、11月「芋掘り」、12月「クリスマス」が主なものである。これらから、祝日などがある記憶に残りやすい年中行事が選ばれ易いと言える。「母の日」や「父の日」など祝日として固定されていないものは選ばれることが少なく、記憶に残っていない可能性が考えられる。一方「敬老の日」は祝日であるが、9月の題材としては「月見」の方がデザインを考え易いとして好まれている。この壁面構成では1ヶ月に1種類のデザインを固定して考えているため、月の半ばでデザインを変えることが出来ないため、考え易い題材の方が選ばれることになっているのだろう。しかし、「母の日」、「父の日」、「敬老の日」などは人間関係を学ぶ過程において果たす役割が大きいと考えられるので、取り上げるべき活動や題材であるとして考えていきたい。また、壁面などの環境構成にも題材として取り入れていきたい。

これらのことから、自分が考え表現しやすい題材を選ぶ柔軟な思考の重要性と、子どもを取り巻く環境を構成するのだという自覚を持った適切な題材選定をする必要性について、改めて考えなくてはいけないことが分かる。

引用文献

- 1) 厚生省：「保育所保育指針」、フレーベル館（1999）p.5.
- 2) 前掲著1）p.6.
- 3) 前掲著1）p.6.
- 4) 文部省：「幼稚園教育要領」、大蔵省印刷局（1998）p.1
- 5) 前掲著4）p.1.
- 6) 前掲著4）p.2.

